

東シナ海ブロック水産業情報

No. 124(2024年1月~3月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
	<p>○筑前海 【カキ養殖】 筑前海全体の生産量は昨年並み。カキ小屋での販売を中心に出荷。 一部の海域で、昨春の食害の影響で収穫量が減少。 【ワカメ養殖】 一部の海域で、栄養塩不足により収穫量が減少。 【アカモク養殖試験】 種苗生産したアカモク幼体を、沖出し養殖試験を実施。</p> <p>○有明海 ・冷凍網は当初、1月6日を出庫予定としていたが、12月13日以降、珪藻赤潮が解消することなく、栄養塩量が少ない状況が持続したため、出庫日を2回延期するという異例の状況で、2月3日から開始された。 ・栄養塩量が少なく、2月7日には色落ちは重症化した。摘採は2月10日頃から開始され、4月17日までに網撤去、4月30日までに支柱の撤去を終えた。 ・珪藻赤潮の種類は、1月初旬はキートセロス属、中旬はシュードニッチアとスケレトネマ属、下旬はタラシオスリックスと変化し、2月13日にユーカンビア属、2月26日にリソソレニア属、スケレトネマが確認され、3月28日まで継続した。 ・2月以降の栄養塩は、降雨時に一時的に増加する場合を除き、低水準で推移したが3月25日頃から栄養塩は回復した。 冷凍網は、生産枚数4億1千3百万枚(過去5年比53%)、生産金額72億9千1百万円(過去5年比72%)、平均単価17.66円(過去5年比+4.66円)</p> <p>○豊前海 【カキ養殖】 ・10月に身入りが遅れたが、水温低下ともない、11月以降、成長及び身入りとも回復。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、「網袋」による干潟での保護・育成試験を実施中。</p>	<p>○有明 ・カキ養殖 大浦地区の令和5年度のマガキ養殖生産は、前年夏季の高水温と産卵疲労による斃死があったため、13.9トンで例年より少なかった。令和6年度は、令和6年1月に種ガキを搬入し開始されている。搬入された種ガキは、大浦地先の干潟で抑制飼育を行い、養殖袋への種ガキの垂下は、4月中旬から順次行われ本養殖が開始される。 ・ノリ養殖 冷凍網の出庫は、令和6年1月5日以降順次行われたものの、キートセロス赤潮が続き、生産は厳しい状況であった。その後、ユーカンビア赤潮が発生したもののまとまった降雨があったため、生産は何とか継続され、秋芽網期と冷凍網期を併せた生産枚数は約9.9億枚となった。これは、平成5年以降、過去2番目に低いものとなったが、昨年度に引き続き高単価であったことから生産金額は約223億円と昨年並みの生産金額となった。</p> <p>○玄海 ・アカウニ稚ウニ70万個体飼育中。</p>		<p>マダイ:滑走細菌症 クルマエビ:ピブリオ病 マアジ:ピブリオ病 アユ:冷水病 ヤマメ:冷水病、ガス病 ニホンウナギ:ウイルス性血管内皮壊死症、高温障害</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
	<p>・令和5年のシラスウナギ種苗生産を終了。シラスウナギの最終生産尾数は850尾。</p>		